

元気いっぱい !!

 日本赤十字社医療センター附属乳児院
Home for Infants, Japanese Red Cross Medical Center



〒150-0012

東京都渋谷区広尾4丁目1番1号

TEL 03-3400-0147 (代) 03-3400-1311

<http://www.med.jrc.or.jp/relation/tabid/385/Default.aspx>

理念

私たちは、「人道・博愛」の赤十字精神を行動の原点として、子どもの最善の利益を守り、心身ともに健やかに成長できる保育看護を提供します。

私たちは、家族に寄り添い、地域との連携をはかり、親子関係の構築を支援します。



with コロナの生活

看護師長 渡邊 美奈

前回に引き続き、新型コロナウイルス感染症のお話です。

東京都内、全国各地においても、未だ感染者の報告数はゼロには遠く、乳児院では、できるだけ施設内の人の出入りを抑え、職員もマスク・手指消毒をしっかりと行うなど、感染対策を継続しています。

感染対策として始めた「オンライン面会」では、最初は画面と反対側を向いたり、画面からの呼びかけに驚いて泣いてしまう子もいたり、職員も慣れないかたちでのスタートでした。回数を重ねるごとに、画面の中のご家族の顔をのぞいたり、カメラの前で自由に遊ぶ子もいたり、今までとは違ったかたちでささやかな親子の交流が図れるようになりました。

7月よりショートステイ事業も小規模ですが、開始しています。今迄のように保育室に入るのではなく、生活体験室を利用して入所しているお子さんとは別に対応しています。

基本的には、新規の入所のお子さんも乳児院内の観察室で一定の観察期間を経てから居室へ移動するなど、感染の持ち込みを防ぐための対策を徹底・継続しています。

職員の働き方も感染発生時のリスクを最小限にするために、ユニット毎に職員を配置・食事休憩も別々・ユニット外での交流を抑えるなどの対策を実施しています。

そんな中でも、子どもたちにできることはないかを日々考え、フェイスシールドを改良し、大人の口元が見えるようにすることで、食事の食べ方やことばの発声を教える試みも始めました。生後間もなく入所したお子さんたちにとっては、マスクをしていない大人の顔は初めてなのでしょう。最初はきょとんとした表情で、でもすぐにマスク越しとは違った大きな反応がありました。また、恒例の花火も部屋毎に分かれてベランダで見たり、担当職員といつもと違うお部屋で過ごす時間を設けたり、with コロナの生活を少しでも楽しく送れるように工夫を凝らしています。

また、コロナ禍においては、行政はじめ多くの方々にマスクをご寄付いただきました。職員が汗で、水遊びで濡れたマスクを交換するのにとても助かっています。感謝しております。お陰様でコロナ以外の感染症の発生も皆無で、子どもたちは元気に過ごすことができています。乳児院の感染対策で一番大切なのは、大人が感染を持ち込まないことです。今後も職員一同、自身の体調管理に留意し、子どもたちと生活していく所存です。引き続き、関係者・皆様のご理解・ご協力をお願い致します。

花火大会

保育士 福澤

今年は、世の中が新型コロナウイルス流行のため、いつもとは違う形で開催することになりました。幼児部はユニットごとで2日に分けて打ち上げ花火大会としました。台風の影響による天候不良が心配されましたが、天気にも恵まれ予定通りに行えたことも良かったです。プレイルームに集まり各部屋順番にウッドデッキで鑑賞しました。初めて見る花火に驚き泣いてしまう子もいましたが、花火が上るごとに音や光に慣れ、「うわー」と笑顔で歓声を上げる姿はとても可愛かったです。次の日に大きな子どもたちが「はなび、みたね」と目を輝かせて話していました。形は変わっても、子どもたちと一緒に季節の行事を体験していきたいと思いました。



スイカわり

保育士 鈴木

プレイルームにビニールシートが敷かれ、いつもと違う雰囲気の中、大きなスイカが登場。皆でねじりハチマキをして準備完了！一人ずつ順番に、竹の棒が渡されました。長い竹の棒を両手で持つのは難しいのか、全員が片手で持って、振り回されるようにスイカを叩いていました。何回叩いても大きなスイカは割れず、最後は包丁で切り分けました。大好きなスイカの食べ放題。いつもはデザートの一切れなのに『もっと食べる』と言っても『どうぞ』『どれにする？』と選ぶこともできました。笑顔がたくさん“ひととき”でした。



熱中症予防について

看護師 矢野

今年も猛暑厳しく、コロナ予防に加え、熱中症にも気を使いましたね。乳児院でも、今年から、午前・午後と気温を測り、熱中症指数の温度基準に従って、31℃以上を「危険」・28～30℃を「嚴重注意」・25～27℃を「警戒」・25℃未満を「注意」とし、それぞれ全職員がわかるよう色別に表示することにしました。それによって、少しの時間だけお散歩・ベランダの日除けの下での水遊び・涼しいプレイルームで遊ぶなど、過ごし方を工夫しました。水分をこまめに摂り、子ども達は元気いっぱい遊んでいました。

